



科学委員会



- 6月7日（金） 第1回会議
- 9月4日（水） 第2回会議
- 3月5日（水） 第3回会議

エゾシカ  
ワーキンググループ



- 6月25日（火） 第1回会議
- 11月22日（金） 第2回会議

ヒグマ  
ワーキンググループ



- 8月6日（火） 第1回会議
- 12月19日（木） 第2回会議

適正利用・  
エコツーリズム検討会議



- 6月21日（金） 第1回会議
- 2月20日（木） 第2回会議

■制作・発行 環境省釧路自然環境事務所 〒085-8639 北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行日 2025年3月

表紙 知床岬のエゾシカ



# news letter

## 知床世界自然遺産地域 科学委員会しんぶん 2025



- 科学委員会 - 知床世界自然遺産地域管理計画の改定作業が大詰め
- エコツー WG- 知床の価値共有へ
- ヒグマWG -2025年度のヒグマ状況
- エゾシカ WG - 知床岬での厳冬期捕獲再開へ
- 海域 WG- 第47回世界遺産委員会決議の対応について
- 河川工作物 AP- 河川工作物の改良を続けています

このニュースレターは、知床世界自然遺産地域の取り組みを地域のみなさんにお伝えすることを目的に環境省が発行しているものです。



会議の内容や調査結果をもっと知りたい方はコチラ  
<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

# こんにちは 科学委員会です！

知床の貴重な自然をより良い状態で守っていくために、「科学委員会」という組織が活動しています。この委員会は、自然環境の専門家や行政機関の担当者が集まり、知床の環境を調査し、より良い管理方法について管理機関や地域に助言する場として 20 年以上活動しています。

科学委員会では、知床の自然環境の変化を調べる「モニタリング」や、世界遺産地域を守るために必要な対策について議論を行っています。また、科学委員会（本体）のほかに、より詳しいテーマごとに専門のグループ（ワーキンググループ）を設けており、それぞれ年に 2 回ほど話し合いを行っています（図 1）。

このニュースレターでは、地域の皆さんや知床に関心のある方々に向けて、科学委員会や各グループの活動状況、話し合われた内容をお知らせしていきます！



図1. 知床世界自然遺産の管理の仕組み



知床を代表する哺乳類ヒグマ



会議の様子

## 知床世界自然遺産登録 20 周年記念事業



知床は 2024 年に国立公園指定 60 周年、2025 年に世界自然遺産登録 20 周年を迎えました。行政機関や地域、企業と連携し、シンポジウムや各種イベントの開催など、さまざまな取り組みを進めてきました。知床のこれからのを考えるうえで、この 2 年間は確かな礎となりました。

知床のこれまでの振り返りながら、2025 年に知床財団が取り組んできた活動についてご紹介します。

### 2025年度の知床財団連携事業

- 5月6日 大阪・関西万博「テーマウィーク」講演
- 6月5日 大阪・関西万博「千の自然 千の時間」出演・出展
- 6月15日 NHK 釧路主催  
「知床・大いなる自然の世界」スペシャル上映イベント開催
- 6月21日 NHK 北見主催  
中標津青年会議所・斜里青年会議所とパートナーシップ協定調印
- 6月22日 「赤羽気象予報士のお天気ワンポイントトーク! in 知床」開催
- 7月17日 環境省主催  
世界自然遺産登録 20 周年記念日
- 8月31日 20 周年 記念シンポジウム開催
- 9月6日・7日 「SHIRETOKO Adventure Festival 2025」開催
- 11月13日 知床財団主催  
20 周年 知床シンポジウム開催 I
- 2月28日 知床財団主催  
20 周年 知床シンポジウム開催 II



TOPIC  
1

## 知床五湖で園芸スイレンの除去作業が進んでいます

世界遺産の新規登録や、すでに登録されている遺産の保全状況を確認するため、「世界遺産委員会」という会議が毎年開かれています。2023年9月に開かれた第45回世界遺産委員会では、知床について6つの課題が指摘され、対応についての報告が求められました。この報告を作成するため、科学委員会や専門家による会議で議論を重ね、2024年11月にユネスコへ正式な報告書を提出しました。

## 主な対応 気候変動への対策をしてください

知床の自然環境にも影響を及ぼす気候変動に対応するため、具体的な対策をまとめた「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定しました。生物への気候変動の影響を観察しながら、生態系を維持していくための対策を進めていきます。



## 主な対応 トドの保護と漁業との両立が重要です

漁業被害を防ぎながら、トドを保全するために、2024年に管理方針が改定されました。新たな方針のもと、科学的なデータに基づき、絶滅の危険性のない範囲内で適切に管理していきます。



作成中

TOPIC  
2

## 知床は国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年を迎えます

2024年は知床国立公園の指定から60周年、そして2025年7月には世界自然遺産に登録されて20周年という大きな節目を迎えます！

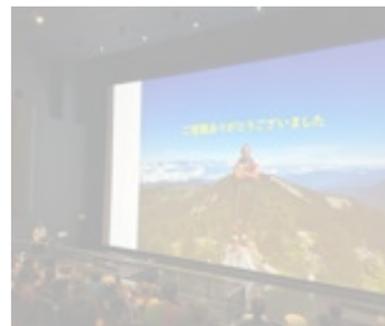
これを記念し、環境省・林野庁・北海道、そして斜里町・羅臼町が実行委員会を立ち上げ、さまざまな記念イベントを企画しています。テーマは「海と、森と、人がつなぐ。」で、周年記念のロゴマークも作成しました。



## 2024年の主なイベント

- 5月：東京の新宿御苑で開催した「メディア向けフォーラム」で記念事業をスタート
- 6月：「知床国立公園指定60周年記念シンポジウム」を開催
- 9月：「SHIRETOKO Adventure Festival 2024」で知床の魅力を発信

2025年も、世界遺産登録20周年を祝いイベントを予定しています！知床の自然と文化を未来へつなぐこの機会、ぜひご注目ください。



SHIRETOKO Adventure Festival 2024の様子

TOPIC  
1

## ユネスコへ保全状況報告書を提出！

世界遺産の新規登録や、すでに登録されている遺産の保全状況を確認するため、「世界遺産委員会」という会議が毎年開かれています。2023年9月に開かれた第45回世界遺産委員会では、知床について6つの課題が指摘され、対応についての報告が求められました。この報告を作成するため、科学委員会や専門家による会議で議論を重ね、2024年11月にユネスコへ正式な報告書を提出しました。

## 主な対応 気候変動への対策をしてください

知床の自然環境にも影響を及ぼす気候変動に対応するため、具体的な対策をまとめた「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定しました。生物への気候変動の影響を観察しながら、生態系を維持していくための対策を進めていきます。



## 主な対応 トドの保護と漁業との両立が重要です

漁業被害を防ぎながら、トドを保全するために、2024年に管理方針が改定されました。新たな方針のもと、科学的なデータに基づき、絶滅の危険性のない範囲内で適切に管理していきます。



作成中

TOPIC  
2

## 知床は国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年を迎えます

2024年は知床国立公園の指定から60周年、そして2025年7月には世界自然遺産に登録されて20周年という大きな節目を迎えます！

これを記念し、環境省・林野庁・北海道、そして斜里町・羅臼町が実行委員会を立ち上げ、さまざまな記念イベントを企画しています。テーマは「海と、森と、人がつなぐ。」で、周年記念のロゴマークも作成しました。



## 2024年の主なイベント

- 5月：東京の新宿御苑で開催した「メディア向けフォーラム」で記念事業をスタート
- 6月：「知床国立公園指定60周年記念シンポジウム」を開催
- 9月：「SHIRETOKO Adventure Festival 2024」で知床の魅力を発信

2025年も、世界遺産登録20周年を祝いイベントを予定しています！知床の自然と文化を未来へつなぐこの機会、ぜひご注目ください。



SHIRETOKO Adventure Festival 2024の様子



TOPIC 1

### 知床世界自然遺産地域管理計画の改定作業が大詰め

知床は、北半球で流氷が到達する最南端の地域とされ、流氷が運ぶ栄養分が、知床の豊かな生態系を支えています。その価値が評価され、世界自然遺産に登録されました。しかし、地球規模での気候変動の影響により、気温の上昇や流氷の減少が生じており、生態系や自然環境への影響が懸念されています。

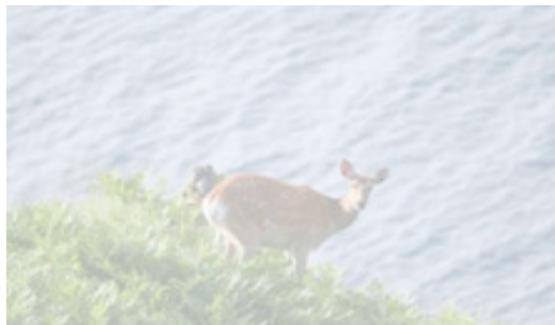
この課題に対応するため、環境省、林野庁、北海道などの関係機関は科学委員会の助言を得ながら「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定しました。この戦略は、気候変動がもたらす生態系への影響を予測した上で、その影響を和らげたり、変化した気候に適応するための対策を整理したものです。当面は、動植物の調査を継続し、生息状況などに変化があった場合には、戦略をもとに、原因が気候変動によるものか分析し必要な対策をとっていきます。日本の他の世界自然遺産地域に先駆けて知床で初めて策定されました。

地球規模の問題を根本から解決するのは難しいかもしれませんが、世界遺産として価値が認められた知床の自然を少しでも良い状態で維持するため、地域の皆さんとも協力し、知床の豊かな自然を未来へ引き継いでいきます。

作成中



もっとも気候変動の影響が懸念されるのが流氷



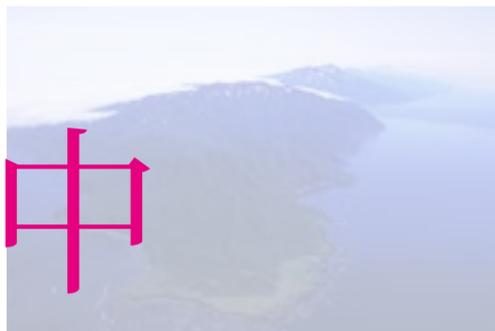
気候変動は動植物の生息環境にも影響を及ぼす可能性があるか

TOPIC 2

### 携帯電話基地局整備と衛星通信技術の利用可能性

知床半島では、携帯電話の不感地帯の解消を目的とした通信環境の改善が進められています。この取組の中でも知床岬及びニカリウスにおける携帯電話基地局の整備計画について、令和6年6月の科学委員会において知床世界自然遺産地域の顕著で普遍的な価値（OUV）に与える影響について検討し、「環境及び生態系調査が不十分であり、OUVへの影響を判断することはできない。このため、工事を一時中止して、調査を実施し、改めて影響を評価すべき」との助言を行いました。これを受け、令和7年3月の科学委員会では、事業者より自然環境調査の計画概要が示され、今後、ニカリウスにおいてOUVへの影響を判断するための調査が実施される予定です。

作成中



知床半島先端部地区

TOPIC 1

### 知床の価値共有へ2 「ストーリーブック」まもなく公開します！

山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。智に働けば角が立つ。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。山路を登りながら、こう考えた

作成中



TOPIC 2

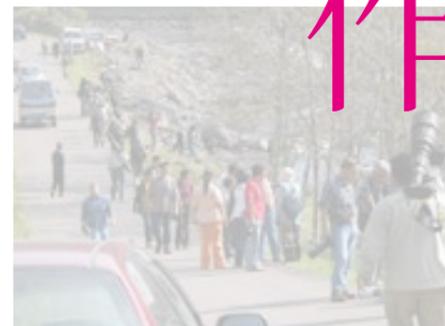
### 観光利用のモニタリング - 2025年 知床地域の利用状況

知床五湖へ向かう道沿いのある川では、秋になると川を遡上するサケ・マスを求めるヒグマを観察することができます。国立公園の中でヒグマと出くわす機会があるのは、まさに「知床らしい体験」です。この川沿いにはクマを見ようとする人たちが集まり、カメラを構えた方々が道端に並ぶ様子は、すっかりおなじみの光景になってしまいました。このようにクマを観察・撮影するために渋滞が発生する状況は、実は20年以上変わっていません。しかし、人とクマの距離が近すぎると、クマの行動に影響を与えたり、万が一の事故につながる可能性が高くなります。その間、電気柵の設置やクマの追い払い、クマに接近する人への注意や危険に関する注意喚起など、さまざまな対策を行いました。決定的な解決策は見つかっていませんでした。

そんな中、2023年に改正自然公園法が施行され、ヒグマへの過度な接近を禁止する新しいルールが加わりました。その結果、パトロール時に説明をすると、多くの方が理解し、その場を離れてくださるようになりました。

しかし、一部の方はスタッフがなくなるとまた元の場所に戻り、同じようにクマ見物を続けています。その結果、今年の秋も上記のような光景がなくなることはありませんでした。この問題を根本的に解決するために、様々な専門分野で連携してより効果的な対策を考えていきます。

作成中



川沿いの「ヒグマ渋滞」と降車してヒグマを見ようとする人々



啓発チラシ



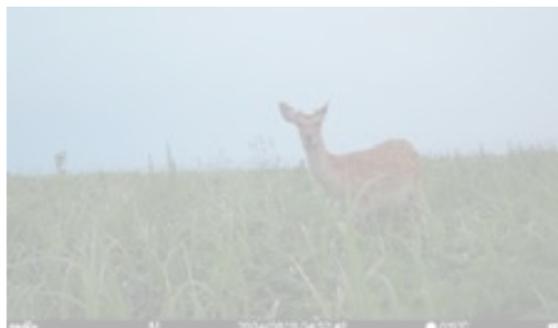
## TOPIC 1 2025年度のヒグマ状況

知床半島では、「エゾシカが増えすぎることによって植物などの自然に与える影響を減らす」ための対策が進められています。その一環として、2007年から知床岬周辺でエゾシカの数調整する取り組みを続けており、これまでに約1,000頭を捕獲しました。

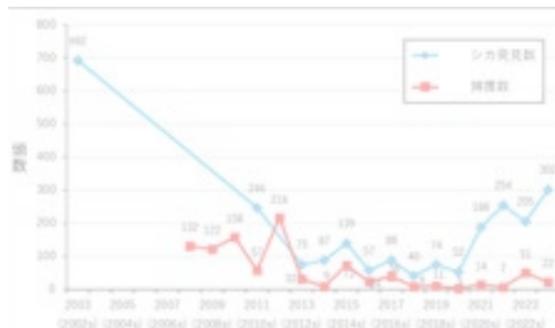
この対策の効果もあり、一時はシカの数が減りました。しかし、2017年以降は捕獲数が減り、最近の調査では再びシカが増えていることがわかりました（下図右側）。

エゾシカが増えすぎると、草や木を食べ尽くしてしまい、本来の知床の植生が失われてしまいます。これまでの管理で、知床岬の一部では植物が回復してきましたが、再びシカが増えつつあるため、今後の状況を注意深く見守る必要があります。

知床の豊かな自然を守るため、引き続きエゾシカ対策を進めていきます。



自動撮影カメラによって撮影されたシカの様子



知床岬におけるシカ発見頭数及び捕獲数の推移

## TOPIC 2 20年来の課題解決へ

2024年6月、シカ対策の専門家や行政関係者21名が、知床岬周辺の現地視察を行いました。この地域では近年シカの数が増えており、今後の管理方針が大きな課題となっています。

今回の視察では、専門家が実際の現場を見て、会議の資料だけでは分からない状況を確認しました。その後の会議では、以下のような対策が提案されました。

### ▶シカの捕獲を効率よく進めるための方法

捕獲の補助として設置されている柵を改良することや、以前行われていた冬季の捕獲を再開することの必要性が指摘されました。

### ▶シカの動きや生息数を正確に把握する調査

これまで、上空からのカウント調査によってシカが最も集中する越冬期の生息状況を把握してきましたが、自動カメラを活用して、植物の生育期を含めて一年を通してシカの行動を詳しく調べることができるようになってきています。

知床岬でのシカ対策は、まもなく開始から20年を迎えます。これまでの成果をふまえながら、今後もより効果的な取り組みを進めていきます。



知床岬地区の草原で確認されたシカの群れ (2024年3月)

作成中

## TOPIC 1 知床岬での厳冬期捕獲再開へ

環境省では、国立公園をより多くの人にとってもらうための取り組みを進めています。その一環として、知床では「知床の魅力をどのようにわかりやすく来訪者に伝えるか」を考える計画（インタープリテーション全体計画）を作っています。

この計画では、知床の自然や文化の大切さを「いつ・どこで・誰が・どのように伝えるか」を整理し、地域全体で共有することを目指しています。簡単に言うと、「知床の魅力をみんなで分かりやすく伝えよう!」という取り組みです。計画づくりは2年間の予定で、来年度の完成を目指しています。今年度は、ウトロ・斜里・羅臼の3つの地域で、合計9回のワークショップを行いました。参加者の皆さんから、地域ごとのさまざまなアイデアや意見が出されました。

今後は、これらのご意見を整理し、さらに計画の作成を進めていきます。進捗については、またお知らせしますので、ぜひ楽しみにしてください!

作成中



ワークショップの様子@羅臼会場



グループワークに取り組む地域住民の様子

## TOPIC 2 この冬のエゾシカの捕獲状況

2024年10月5日、「北海道東トレイル」が開通しました! 釧路と羅臼を結ぶ約410kmの歩くための道（ロングトレイル）で、知床国立公園・阿寒摩周国立公園・釧路湿原国立公園の3つの国立公園をめぐるのが大きな特徴です。

トレイルは、海沿い、畑、カルデラ、酪農地帯、温泉、森とさまざまな景色の中を歩きながら道東の自然を満喫することができる魅力的なルートになっています。

また、トレイルのロゴマークも決まり、専用のWEBサイト (<https://dototrail.org/trail-charter/>) も公開されました。このサイトでは、ルートマップやアクセス方法、注意事項、地域の観光情報などを紹介しています。

ロングトレイルは自然豊かな地域を楽しむためのコンテンツとして非常に注目が高まっており、今後は国内外から多くの方に訪れていただけることを期待しています。ぜひ、東北海道の大自然を感じながらトレイルを楽しんでください!



トレイルを歩くハイカーの様子

作成中



TOPIC 1

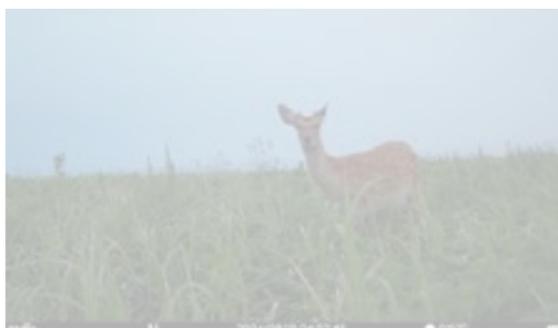
### 第47回世界遺産委員会決議の対応について

知床半島では、「エゾシカが増えすぎることによる自然に与える影響を減らす」ための対策が進められています。その一環として、2007年から知床岬周辺でエゾシカの数調整の取り組みを続けており、これまでに約1,000頭を捕獲しました。

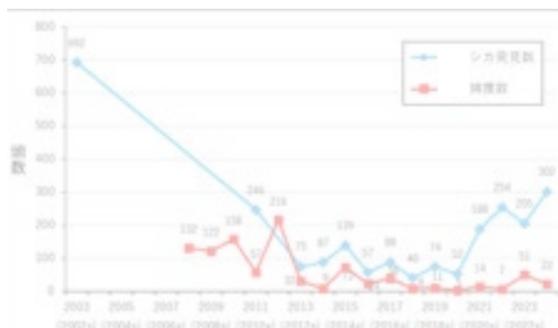
この対策の効果もあり、一時はシカの数が増えましたが、2017年以降は捕獲数が減り、最近の調査では再びシカが増えていることがわかりました（下図右側）。

エゾシカが増えすぎると、草や木を食べ尽くしてしまい、本来の知床の植生が失われてしまいます。これまでの管理で、知床岬の一部では植物が回復してきましたが、再びシカが増えつつあるため、今後の状況を注意深く見守る必要があります。

知床の豊かな自然を守るため、引き続きエゾシカ対策を進めていきます。



自動撮影カメラによって撮影されたシカの様子



知床岬におけるシカ発見頭数及び捕獲数の推移

TOPIC 2

### 貝類群集のモニタリング結果について

2024年6月、シカ対策の専門家や行政関係者21名が、知床岬周辺の現地視察を行いました。この地域では近年シカの数が増えており、今後の管理方針が大きな課題となっています。

今回の視察では、専門家が実際の現場を見て、会議の資料だけでは分からない状況を確認しました。その後の会議では、以下のような対策が提案されました。

▶シカの捕獲を効率よく進めるための方法

捕獲の補助として設置されている柵を改良することや、以前行われていた冬季の捕獲を再開することの必要性が指摘されました。

▶シカの動きや生息数を正確に把握する調査

これまで、上空からのカウント調査によってシカが最も集中する越冬期の生息状況を把握してきましたが、自動カメラを活用して、植物の生育期を含めて一年を通してシカの行動を詳しく調べることができるようになってきています。

知床岬でのシカ対策は、まもなく開始から20年を迎えます。これまでの成果をふまえながら、今後もより効果的な取り組みを進めていきます。



知床岬地区の草原で確認されたシカの群れ (2024年3月)

作成中

TOPIC 1

### 河川工作物の改良を続けています

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。

意地を通せば窮屈だ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。どこへ

作成中

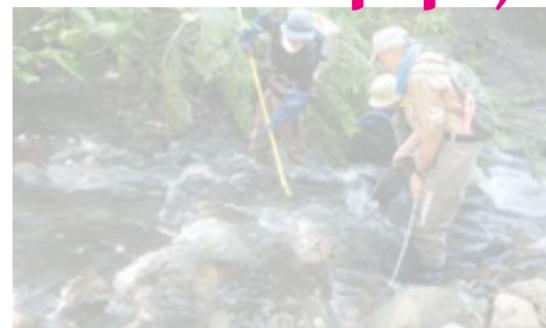
TOPIC 2

### カラフトマスの遡上数が急減しています

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。

意地を通せば窮屈だ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。どこへ

作成中



採捕調査



カラフトマス遡上数推移

TOPIC 3

### 淡水魚のモニタリング調査について

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。

意地を通せば窮屈だ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。どこへ

作成中